

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101957		
法人名	株式会社アシスト		
事業所名	グループホームつつじが丘しののめ		
所在地	長崎市つつじが丘4丁目15-1		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な成鏡の下、利用者様の思いを大切に生活の中で楽しみを作り、笑顔で過ごしていただくこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は令和5年に経営母体の変更があり、新代表は家族に挨拶状を出すとともに、看取り支援の体制について改めて丁寧に説明を行っている。職員は退職することなく継続して従事しており、利用者は安心して暮らし続けている。施設長は、早速地域自治会の総会に出席しており、事業所の紹介を行ったり、民生委員と情報交換を行う等、地域に溶け込む努力が窺える。また保育園との交流も実施し、利用者の笑顔を引き出している。コロナ禍での家族の気持ちに寄り添い、正月には家族が来訪し、楽しいひと時を過ごしている。更に、ICT化を進め職員の負担軽減と業務改善に取り組んでいる。”地域社会に住む人々の幸福をアシストする”という法人理念にあるように、独居住民への安否確認等を行っており、理念の具現化に真摯に取り組んでいる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕と業務内容の申し送りと支援時の注意等を口頭で行い書面にして共有している	経営母体の変更にあたり、代表や施設長は、職員との個別面談にて、理念を含めた法人方針等の説明を行い、新体制への理解を得ている。利用者のみならず家族の事情にも配慮した支援で、変わらぬ職員のもと安心して、今までの生活が継続できている。理念“家族のような毎日”を職員間で共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの清掃 散歩時のコミュニケーション 災害時に独居の方を一時的に受け入れる 民生委員との交流	施設長は、地域との情報共有を重要視しており、新たに自治会加入の予定で、総会にて事業所の説明を行っている。更に、民生委員2名と繋がっており、地域ケア会議に積極的に参加している。災害時の地域独居高齢者の一時受け入れや日々の安否確認、また利用者と散歩時の住民との挨拶等、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があれば答えるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の要望や利用者の要望になるべく対応できるようにしている	経営譲渡後、1回は書面会議、2回目以降は構成委員や職員が輪番で対面会議を開催し、譲渡前を含め6回である。議事録は全家族へ送付している。転倒リスクがある利用者のために、居室を替えることの是非を会議で検討し、反映している。また、面会の時間や外出について質問があり、居室での20分の面会や外出が可能となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことがあれば関係機関へ相談し助言をいただく事がある	施設長は市担当課と頻りに連絡を取っており、特に困難事例では家族とともに、改善に向け取り組んでいる。また、包括支援センターから、感染対策や空床状況の問合せがあり回答する等、連携に努めている。今後、コロナ禍の感染状況次第で、介護相談員受け入れを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修を通して、身体拘束の理解と身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が委員となり、2ヶ月ごとの身体拘束廃止委員会にて事例検討している。研修年2回の内、直近では、虐待防止に関するDVDを視聴し、職員各々がレポートを提出しており、自身の支援の在り方を振り返っている。不適切と思われる職員の言動には、施設長から指導があり、拘束のない支援に取り組んでいる。	

グループホームつつしが丘しのめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して理解を深めたり職員間で声かけや介護方法をその都度見直している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者で成年後見制度を利用している方はいないが管理者も含め研修に参加し現場職員へ共有を行う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容書類に不明な点がないかその都度確認し、介護保険等の制度の件も分かりやすく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば職員に伝え反映できるように努めている。 面会の緩和など	経営母体変更の際に、全家族に挨拶状を出している。殆どの職員が継続して勤務しており、本人・家族の安心に繋がっている。家族とはメールやLINE、電話等、利用しやすい方法を選択して連絡を取り合っている。また、看取りについてアンケートも取り直している。家族から菓子を持って訪ねて来て良かったとの要望に応えた事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行い職員の意見などを聞く機会を作っている。介護職各人は目標を持ち、日々業務に取り組んでいただいている	日常では、2名のリーダーが職員の意見を聞き取っている。職員会議では、事前に議題を募集しリーダーが司会を務めている。行事は職員が主体的に企画しており、職員の意見を運営に反映させる仕組みがある。施設長は、定期的に訪れコミュニケーションを図っており、ロッカー等の購入の要望を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護記録のICT化(タブレット導入) 食事を3食とも外部委託へ変更 環境整備(介護ベッド導入)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過もあり、外部での研修参加が乏しかったが個人のスキルアップの為に外部研修の案内を共有し参加を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サテライト事業の為本体事業所との交流 管理者は地域のグループホームの会議への参加で情報収集を行い職員へ共有して行く		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境を把握の上、面談を実施し本人様の思いやご家族の思いを傾聴しその情報を会議などで伝え、入居後のコミュニケーションで役立っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より適宜、電話や面談で困りごとや不安な事を傾聴し対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の上で必要なサービスを考え、ケアプランで確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いをくみ取り支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時は家族の協力もいただきながら、ご本人様の生活が安心して行えるような対応をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取り 運営推進会議時に活動の様子を伝える	現在、面会の制限は設けておらず、正月には家族が訪れ、利用者と家族、職員が福笑いで楽しいひと時を過ごしている。携帯電話を使って家族へ連絡したり、本人が年賀状の返事を書く際に職員が手伝っている人もいる。家族と行き付けの美容院に出掛けたり、愛用の乳液等を使用しているなど、馴染みの人や物の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	TV前に集まり、体操や歌会を利用者様同士で行う テーブルにて個々の出来る作業を行う		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じたり、継続して地域住民の一人として運営推進会議に参加していただく ご家族には近況報告を行う		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、行動から利用者様の変化に気付き職員から利用者様へ話すことで思いをくみ取りご家族へ伝え対応するようにしている	起床時に洋服を選ぶ際は、利用者の意向を尊重しており、日中の過ごし方は、利用者の自由である。難聴の利用者には、耳で話しかけている。職員は、「墓参りに行きたい」「買い物に行きたい」等利用者の発した言葉や好きなこと等を送りノートに記録している。ただし、利用者毎に思いや意向を一目で把握できる状態ではない。	利用者の思いや意向を把握し、毎日の支援に繋げることができるよう、利用者の思いを一つに纏める工夫が待たれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やご家族様からのご本人様の情報を聞き取り、入所後はご本人様との会話を通して生活歴の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有を行い、生活意欲につながる支援を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員に支援に対しての問題や改善がないかを確認しモニタリングを実施している	日々の記録はタブレットを活用している。毎月、担当職員が課題分析、評価しており、担当者会議では、ケアマネジャーが全職員の意見を集約し、変化があれば計画の見直しに繋げている。介護計画は、長期6ヶ月、短期3ヶ月で作成し、家族の意見は、来所時や電話で尋ね、本人・家族に同意を得て、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員でのご利用者様の変化や気づきの共有を行い介護計画の見直しに活かしている		

グループホームつつしが丘しのめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のみではなく、ご家族様や取り巻く環境もあり、出来る事と出来ないこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院を利用し定期的に入居者様の散髪を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週往診、医師(主治医)による体調確認の実施 必要時は他科の受診も主治医の指示により対応している	全利用者が毎週、協力医の往診を受けており、歯科は必要時に往診がある。他科は職員が支援しており、必要時は協力医の紹介状にて受診している。受診結果は家族に報告し、職員間で共有している。毎週、法人訪問看護師による体調管理や協力医との連携、24時間のオンコール等、医療連携体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制にて必要時の医療相談や体調の観察の実施 24時間のオンコール体制		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報共有のため電話でのやりとり、面談を必ず実施している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の意向確認の実施 主治医と家族との話し合いの元、多職種で方針を共有し対応する	契約時に、重度化及び看取りに関する指針を基に、看取りを行う体制である旨を説明し、家族に同意を得ている。事業所は、終末期をどう過ごしたいか現在の気持ちを聞き取っている。これまでに看取りの経験はなく、研修を行っていないが、次年度の計画に看取り期研修を年2回予定し、スキルアップを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルを元に訓練と研修の実施を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に訓練を実施している。	毎月、通報や避難誘導等の火災訓練を、職員数名ずつ数日に分けて実施している。今年2月に消防署立会い、夜間想定訓練を実施し、ベランダへ利用者の避難誘導を行っている。BOPは法人で作成中であり、非常食や水、パッド等、3日分の備蓄がある。ただし、利用者の個人情報を含めた非常時持ち出し書類の整備はこれからである。	有事の際の避難先で、変わらぬ支援を受けられることができるよう、本人の状況を纏めた非常時持ち出し書類の整備に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に応じた声かけの実施と居室やトイレなどに入る場合にはノックをしている	職員は、利用者を人生の先輩として尊重した言葉遣いを心掛け、不適切と感じた場合は、互いに注意している。排泄の介助時は、自尊心に配慮し優しく声かけをしている。運営推進会議で利用者の写真を使用する際は、家族の同意書を得ている。また、職員は守秘義務の誓約書を提出しており、介護記録は鍵付きの書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけており、職員も意識して支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしさを日々考えた上でご本人様のペースで過ごしていただく事を共通の認識としている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類調整や必要時は着替えの介助、清潔に気持ちよく過ごしていただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿や盛り付けの工夫、温度管理に注意して提供する。 ご利用者様が出来る事は役割として職員とともに取り組む	食事は、3食とも業者を利用し、事業所で主食を準備している。利用者のアレルギー等は、事前に業者へ伝えている。ムース食にも対応し、赤飯やお節、雛祭りのちらし寿司もあり、季節感にも配慮したメニューである。誕生日には、ケーキを準備し、職員全員で書いた祝いの色紙を渡し、楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて水分量の確保 食事以外での捕食の提供 食材の形態変更の実施		

グループホームつつしが丘しのため

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後対応しており、自力でできない方は一部介助を行ったり仕上げを職員で対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時に定期的に声掛けを行い、日中、夜間と個々人に合った介護材料を使用している	日中は、トイレでの排泄を基本として、ポータブルトイレの使用は夜のみとしている。トイレは車椅子でも介助ができる広さである。介護度の高い利用者の居室を1階に配し、職員の目が行き届くよう工夫している。パッドを小さくする検討を職員間で行っており、布の下着で過ごす利用者もあり、排泄の自立に向けた支援が見てとれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分量の確認を行い必要時は内服調整し予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調に合わせての入浴の実施 曜日は変更したり入浴回数を増やすこともある	入浴は、週に2、3回の割合で支援している。機械浴を備え、殆どの利用者が肩まで浸かっている。脱衣所には、暖房設備を備えヒートショックを予防している。好みのシャンプーを使う利用者もいる。職員は入浴支援を、本人の若い頃の話や家族の話やゆっくりと聞くことができる貴重な時間と捉えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間をご利用者様毎に作り居室で一人になる時間も作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の文献にて介護職員は情報収集し副作用や変化がある場合は訪看職員、主治医へ相談する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を理解した上で役割や楽しみを作って頂けるように対応している		



グループホームつつしが丘しのため

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ、インフルエンザの時期もあり状況を見てご利用者様の外出等の機会を作っている	日常的には、天気の良い日に、近隣の公園に散歩に行き、花や紅葉を眺めている。菓子を買いに近隣の商店へ出掛けることもある。外食を希望する利用者の要望に家族が応え、楽しい時間を過ごした人もある。職員が外出の企画書を作成し、外出の機会を作っている。春は、桜の花見やつつじ見物も計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したいという訴えがあるご利用者様が今のところいない。 必要なものはご家族が購入して下さいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様で携帯電話を持っているがメールのやり取りもできず、電話も受けるのみである		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール(食堂内)に光が差し込むようにしており照明で明るい雰囲気作り 季節の花やご利用者様の作成した物を壁に飾るなどしている	リビングは吹き抜けで、明るく開放感がある。利用者はテーブルに集い、YouTube内蔵テレビから流れる音楽に合わせて、体操や歌謡曲を楽しんでいる。利用者や職員の笑い声が響き家庭的な温かさがある。職員の清掃や消毒で清潔感を保持している。ただし、トイレの洗剤類が手に取れる位置にある。	利用者が、手にして事故にならないよう、目に触れない保管場所の整備が急がれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席の配置に注意している ソファで過ごしていただく		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドやタンスの使用 仏壇、遺影など各ご利用者様の思い思いの居室となっている	2階の居室の利用者は、エレベーターで自由に行き来できる。家族の協力を得て、本人の動線に配慮し、馴染みのテレビや仏壇、加湿器等を配している。家族写真には名前が振ってあり、家族の温かみが窺える。職員による清掃、換気で、清潔を保持しており、快適な居室となるよう支援していることがわかる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護ベッドの活用 ホールで自由に歩行ができるための導線の確保 車椅子の選定や歩行器の使用		